



主の聖名を讃美いたします。

今年もアドヴェントクランツに火の灯る季節になりました。それぞれの教会ではクリスマスに向けての準備がなされていることでしょう。今回は役員活動報告だけでなく、被災地を訪ねられた姉妹にもご寄稿いただきました。皆さまが暖かなクリスマスを迎えられるよう祈りつつ、ひびき vol.5 をお届けいたします。

教区壮年連盟総会及び修養会へ参加

まだ残暑厳しい9月22、23日門司海員会館、門司教会において教区壮年連盟総会修養会が行われ、山本副会長と岩切が参加しました。ご夫婦での参加は2組、2日目の修養会へは北九州地区婦人会の姉妹も約15名参加されました。修養会講演会講師は、社会福祉法人デンマーク牧場福祉会 まきばの家・こどもの家施設長松田正幸先生。厳しい現場、教会と施設の関係など率直な思いを聞くことができました。講演会后、グループごとの分かち合いでもたくさんの意見や感想が出ていました。教会と施設の関係を考えるよい機会となりました。

サバ神学院支援に関して検討する小委員会



前列右より、野村姉、河野姉、俵姉

後列右より、秋山姉、岩切

女性会連盟からのお知らせにもありましたように、九州教区女性会はサバ神学院支援に関して検討する小委員会を担当することとなりました。野村連盟担当を委員長とし、サバ神学院を訪ねたことがある方々に委員に入っていただきました。秋山綾子姉(宮崎)、河野久美子姉(室園)、俵恭子姉(室園)と岩切の計5名です。そして、10月10日第1回目の小委員会を行いました。サバ神学院

支援開始から20年という節目に総括を行うこととしました。これまでの「運動体としての宣教の形」を振り返り、また客観的にみることで、これからのことを連盟会員一人一人が自分のこととして捉え考えていくことができれば、と思います。これまでの支援・交流等の資料をまとめ、来春4月の拡大会長会で提示し、皆さまの意見をお聴きしたいと考えています。支援継続の賛成・反対、支援のメリット・デメリット、今後の支援のあり方、様々な意見を集約して5月には連盟役員会へと報告するスケジュールです。どうぞご協力をお願いいたします。

現地見学会（復興ツアー）に行く

安藤なみ江（博多教会）

「東日本大震災ルーテル救援ルーテル支援センター・となりびと」による「現地見学会（復興ツアー）」に、11月8日（金）～10日（日）参加してきました。（10日は仙台教会で礼拝参加）。ご案内は派遣牧師の野口勝彦先生、今回参加者は東海教区女性会から4名と、九州教区博多教会から2名、計6名でし



仮設追波川河川団地集会所にて、「なごみ会」の方達とともに

た。私の手元に現地で頂いた一冊のパンフレットがあります。表紙には・・・「見ておきたい」だけで被災地に行ってもいいですか？・・・と書かれています。私の今回の参加動機はこのようなもので、「不謹慎かも」と不安がありました。文章は続いて書かれていました・・・「そんなことは全くありません」。

確かに、現地に行ってみることの大切さを痛感した旅となりました。今、被災地は、ようやくガレキが取り除かれた段階で、復興は遅く、例えば石巻市「仮換地への建設移転、道路工事は平成26年（予定）より」となっています。

それでも現地の方々の復興努力の力強さには、頭が下がります。気仙沼市の被災地の方々が力を合わせて再建された「前浜マリンセンター」の立派さ。交流会のあった仮設団地の集会所では、「なごみ会」の方が手作りの品々をつくり、販売へ向けて頑張っておられる報告を受けました。又、小学生の子供を失われた、あるお父様は、なぜあの時学校は子供達を救えなかったのか責任を問う裁判を闘い続けていることを私たちに語って下さいました。

被災地では記念碑が多く建てられています。建てずにはおれなかった人々の悲しみが胸に迫ります。山へ逃げお寺で避難したという方達は、釣鐘でご飯を炊いたという。又無事に避難できたのに、その後体調を崩され亡くなった方が、特に高齢者に多かったという話も聞いたことがあります。今も個人で、或は大型バスで見学に来られている人は後を絶ちません。追悼の祈りを捧げる若い人を見ると、是非、次の世代に伝えて行ってほしいと願わずにおれません。

仮設団地では、支援活動の一環としてのイベント案内のチラシを、野口先生と一緒に配布しました。先生は顔がすっかり日に焼け、せわしなく働き、お知り合いになられた土地の方々とは慣れた様子であれこれ相談されていました。先生の今までのご苦労がしのべれます。復興への道のりはまだまだ遠いけれど、ルーテル教会の私たちはそのために何ができるのか、そして私は何ができるのか、問い続け実行して行きたいと思います。

復興ツアー（交流）に参加して



福島：乗り上げている船

益永 和代（甘木教会）

10月29日から31日迄甘木教会（男性2名、女性2名）は復興ツアーへ参加し、被災地を訪ねました。29日はスタディツアーの方3名と一緒に野口牧師、となりびとスタッフの佐藤さんの車に分かれ福島の六角支援隊大留様から支援活動と被災地を案内していただきました。

福島へ向かう道路の両側は、かつては家が立ち並んでいたと思われる跡を残し今は延々と続く荒れた更地の間を車は走ります。

その更地の中に乗り上げられ舟があちこちそのままに放置されていました。福島の町に入ると住む人の居ない店や住処が倒壊寸前の状態で寒々しく息をのみました。此の地を出て行かれた方々の悲しみ、苦しみを思うと今でも涙がでます。原子力発電所を遠くに見、寸断された岸壁に津波の威力を知り、再び繰り返されない事を祈るばかりです。福島県南相馬市では仮設住宅で暮らす方々の為にルーテル教会が支援されたビニールハウスを見学、仮設で住む人たちの復興の力となっているようで嬉しかったです。

2日目は100キロ以上離れた気仙沼の前浜マリンセンターに案内していただきました。多くの支援者と、住民、気仙沼市の三者の協力によって建てられたセンターは、地域の木材をふんだんに使い（8割は木材）住民一人一人が建築に関わり、木の温もりが感じられるセンターです。一つ一つ出来上がる過程がコミュニティーの場であり復興の力となったお話に胸が熱くなりました。此の建設の為にルーテル救護支援の手が差し伸べられていました。

石巻河北町で津波を体験された方の話を聞きました。私達には想像を絶する大津波との戦いです。夫婦浮き沈みしながら力を振りしぼり、声かけあいながら九死に一生を得られた、一人では到底助からなかった命も夫婦で励まし合い頑張り励まし合われたからこそ助かったのだと感じました。当日の事を淡々と語られる胸の中には、周りで自分達の事を気づかって訪ねて下さった方が何人も亡くなられた事を悲しんでおられる思いが伝わりました。主の平安がありますように。



相馬市：ルーテル支援によるビニールハウス

災害から2年7ヶ月過ぎ、復興も計画通りにはいかないようです。いまだ沢山の仮設住宅が並び、不自由な思いをされている方々が一日も早く安心して住める日が来る事を祈り帰路につきました。

「ルーテルさんには感謝しています」という言葉を何回も聞きました。私たち一人の小さな支援も沢山の支援となり生かされている、となりびとの大切な働きに触れることが出来た3日間でした。連日100キロもの距離案内して下さった野口先生ととなりびとの働きに感謝致します。



気仙沼市：前浜マリンセンター



教区役員選出方法について

18期役員の任期も残り1年2ヶ月となりました。次の総会へ向けて課題のひとつに「役員選出方法について」が挙げられます。会員の減少と高齢化に伴い役員選出が困難になってきているのが現状です。ブロックの再編を含め考えていかななくてはならないと考えています。

そこで、来春の拡大会長会でも話し合いたいと思います。各女性会、婦人会において例会の際には、どのような方法があるかご検討ください。知恵を出し合い、よりよい女性会へとつなげていくことが出来ますよう、ご協力をお願いいたします。

九州版ひびきについてのご意見・ご感想もお寄せください。(文責：岩切旻世)

